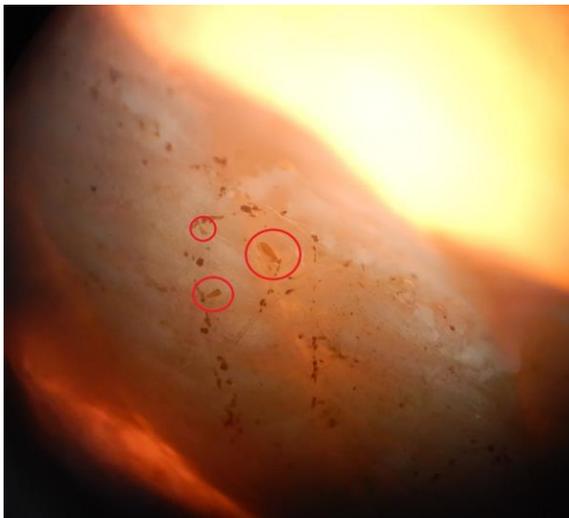


●漁況情報

- 例年、東京湾ではこの時期から夏にかけてクラゲが多くなりますが、金田湾でも5月中旬にアカクラゲが多くなり、その後6月に入るとミズクラゲが大量に出現しているようです。金田湾の定置では多い時には1～2 tものクラゲが入網して処理に苦慮しており、上宮田地区のカレイ、メバル、スズキ狙い刺網も漁模様は良くないようです。
- 普及員が金田湾の定置網漁業者に聞き取ったところ、例年この時期にはサバ子（体長10 cmぐらいのマサバ若魚）が入網するが、今年は特に多いとのことでした。

●浜の話題

- 5月10、20、26日、長井と小坪地区で、漁業者が生産するワカメ種苗の検鏡指導を実施しました。両地区ともに、ワカメ種苗の配偶体が確認されましたが、長井では一部に4列の芽胞体が見られたため、種苗育成小屋内を晴天下でも1000ルクス以下に暗くするよう指導しました。梅雨入り目前で雨天が多いですが、晴れた日の紫外線は強いので、適正に照度管理するよう留意が必要です。



ワカメ種苗の検鏡画像 赤丸部分が芽胞体

- 5月14日、腰越漁協漁業研究会所属漁業者は、今年初めての鋤簾によるハマグリの特採捕許可調査を実施しました。干潮を挟んだ2時間で3～5.6 kg/人、大きさは65～100 mm（平均85 mm）、4名で16.6 kgの漁がありました。当日は若干波もあり鋤簾調査に好適とは言えませんでした。調査を始めた令和1年6月以降最も良い漁獲成績で、地先にハマグリが順調に根付いている様子が確認できました。



腰越の海で育った立派なハマグリ

- 5月15日、葉山町漁協所属漁業者は、(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受けて、ヒラメ種苗を放流しました。当日は(公財)神奈川県栽培漁業協会より購入したヒラメ種苗5000尾(漁協2000、事業団3000)74mmを、森戸と一色海岸地先に放流しました。
- 5月18日、宮城県の松島湾からホタテガイの貝殻に付着した状態のカキの稚貝が横須賀市東部漁協の3支所(横須賀、走水、浦賀久比里)に搬入されました。今年の稚貝は、昨年よりも高密度に付着しているとのことでした。これらは、各支所の漁業者の筏に垂下され、来年の12月頃から出荷する予定です。



養殖筏に垂下されたカキの稚貝

- 5月18日、鎌倉漁協で「鎌倉ハマグリ部会」の会合を開催しました。令和3年度は新たに3名の漁業者が同部会に加わり、ハマグリ生態、昨年度の貝桁曳と鋤簾によるハマグリ分布状況調査結果の概要、それを踏まえた「ハマグリ資源管理・増殖指針」について普及員が説明し、同部会で積み立てている放流歩金による種苗放流や、今年度の調査内容等について話し合いました。



令和3年度「鎌倉ハマグリ部会」の会合

- 5月25・26日、第3普及区の各浜でチョウセンハマグリ種苗放流を実施しました。25日は(一財)横須賀西部水産振興事業団の支援を受けて大楠エリアで、26日は(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受けて腰越と鎌倉で、小坪では(公財)日本水産資源保護協会の漁村研究実践活動助成事業を活用して、それぞれの地先適地に放流しました。鎌倉では、鎌倉ハマグリ部会に所属する貝桁漁を営む3軒の漁業者が、自ら放流歩金として積立てた20万円分の種苗8,916個も放流し、昨年度漁獲個数2,763個の3.23倍の種苗を海に返すことができました。種苗の大きさは、すぐに産卵するサイズの4年物(76mm 103g)と2年物(32mm 9g)で、漁業者は各浜で増殖～今後新たな漁業資源になるよう期待を込めて放流しました。



今年から新にハマグリを種苗放流する横須賀市大楠漁協（左）と小坪漁協（中）の放流の様子
 ハマグリの2年物の小型種苗と4年物の大型種苗（2年間で大きく成長することがわかります！（右）

○ 5月26日、第4普及区の各浜（茅ヶ崎市～大磯町）でチョウセンハマグリ種苗放流を実施しました。
 各浜は（公財）相模湾水産振興事業団の支援と、漁業協同組合が独自で購入した種苗を合わせて実施し、
 種苗の大きさは、すぐに産卵するサイズの4年物（76mm 103g）と2年物（32mm 9g）で、漁業者は各浜の新たな漁業資源になるよう、期待を込めて放流しました。



小型2年物種苗



大型4年物種苗



種苗の放流

○ 5月27日、長井町漁協は、YouTubeチャンネル「おっぺせ！ナガイ ch | 神奈川県の漁協」を開
 設しました。今後、長井の漁業や地魚、浜の情報等を今後発信して行くそうです。同漁協担当者は
 「閲覧並びに、チャンネル登録お願いします！」と話しています。

長井町漁協ホームページ <http://jf-nagaimachi.info/free/sakana-kan>

YouTubeチャンネル「おっぺせ！ナガイ ch | 神奈川県の漁協」

https://www.youtube.com/channel/UCttsbtFXI-vFc_jlzOuzCiQ



○ 5月28日、小田原市漁協青年部が実施している野菜残渣を利用したウニ養殖試験で養殖しているムラサキウニ（1,700尾）のうち200尾を出荷しました。今後、水温の状況や身入り率を確認しながら適時出荷していく予定です。

●お知らせ

- 5月1日、県水産課および県漁連は、漁業就業希望者を対象とした「かながわ漁業就業促進センター」の今年度の研修生募集を開始しました。研修内容は、漁業就業するために必要な基礎知識等を習得する座学研修や、現役漁業者の下で実際に技術を学ぶ漁業実習の他、漁業に必須な1級小型船舶免許や第3級海上特殊無線免許の取得に係る支援もあるそうです。受講を希望される方は、県水産課のHPで詳細を確認の上、6月25日（金）17時までに県漁連まで申請書類一式を郵送またはメールでお申し込み下さい。
- かながわ漁業就業促進センター案内 URL：
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/kanagawagyogyoshugyo.html>
 - お問い合わせ先：（申込先・運営）神奈川県漁業協同組合連合会 指導部 TEL 045-773-8877
メール info@jf-kanagawa.jp
（委託元）神奈川県環境農政局農政部水産課 水産企画グループ TEL 045-210-4542



かながわ漁業就業促進センターの漁業塾 第1期卒業生 柴のアナゴ筒漁や太刀魚曳釣漁を営む漁業者の下で、活躍されています！

- 農林水産省にホームページにコロナ対策で「漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援策」が取りまとめられています。詳しくは下記URLか、「農林水産省 漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援」で検索してご参照下さい。

農林水産省「漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援策」ご案内サイト

https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/support.html

https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/pdf/support_gyogyou.pdf